ヤマハピアノ 消音ユニット

RSシリーズ

取扱説明書

YAMAHA

安全上のご注意（必ずお守りください）

ここに示した注意事項は、製品を正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。
注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると、生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客さまの安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表示について
この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。
この機器の内部には、お客さまが修理／交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。

△記号は、危険、警告または注意を示します。上記の場合、⚠は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、⚠は注意が必要なことを示しています。
⃠記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。
●記号は、行為を強制または指示することを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。
※お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 警　告

この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。

本機の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は、必ずお買い上げ店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。

浴室や雨天時の屋外など、湿気の多いところで使用しない。また、本機の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
感電や火災、または故障の原因になります。

使用中に電子音が出なくなったり、異常なにおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。
感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。

電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災の恐れがあります。

手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の恐れがあります。

電源プラグにホコリが付着している場合は、ホコリをきれいに拭き取る。
感電やショートの恐れがあります。

本機の内部に異物や液体が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。
感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。

⚠ 注　意　この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものを乗せない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災が発生する恐れがあります。

タコ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱したりすることがあります。

電源コードやプラグが傷んだときは使用しない。また、長時間使用しないときや落雷の恐れがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電、ショート、発火などの原因になります。

他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小（0）にする。
感電または機器の損傷の恐れがあります。

直射日光のあたる場所や暖房器具の近くなど、極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またホコリや振動の多いところで使用しない。
外装が変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。

テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。

不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客さまがケガをしたりする原因になります。

本機を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。
コードを傷めたり、お客さまが転倒したりする恐れがあります。

本機を移動するときは、引きずらない。
床を傷つける恐れがあります。

本機を移動するときは、手や足を挟まないようにする。
ケガをする恐れがあります。

本機を使用しないときは、鍵盤蓋を閉める。鍵盤蓋の開閉は、両手で静かに行う。また、お客さまや周りの方が、不用意に鍵盤蓋に触れないようにする。
鍵盤蓋に手や指を挟み、ケガをする恐れがあります。

地震のときは、本機から離れる。
地震による強い揺れで本機が動いたり転倒したりして、ケガをする恐れがあります。

本機の上に乗ったり、重いものを乗せたりしない。また、スイッチやツマミ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本機が破損する原因になります。

大きな音量で長時間使用しない。
聴覚傷害の原因になります。特に、ヘッドフォンを使用する場合や、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用する場合は、大音量になりやすいためご注意ください。
万一、聴力低下や耳障りを感じたら、専門の医師にご相談ください。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証は致しかねます。

長時間使用しないときは、必ず電源を切りましょう。

＊この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

このたびは、ヤマハピアノ消音ユニットをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
お求めの商品を正しくお使いいただくために、お使いになる前に、本書をよくお読みください。お読みになった後は、必ず保管しておいてください。

本機の特長

ヤマハピアノ消音ユニットは、長年にわたる楽器づくりの経験と高度なエレクトロニクス技術を結集して開発した装着型ピアノ消音装置です。お持ちのピアノに取り付けることにより、普段は通常のピアノとしてお使いいただけるほか、夜間などにはピアノの音を消し、ヘッドフォンを通して音を聴きながらのサイレント演奏を可能に致します。
当社独自の搭載システムにより、サイレント演奏時にも高い表現力でピアノ演奏をお楽しみいただけます。ご使用にあたりましては、本書をご参考にしていただき、ヤマハピアノ消音ユニットを十分にご活用くださいますようお願い申し上げます。

目　次

安全上のご注意 ……1
本機の特長 ……3

●ご使用になる前に

付属品をお確かめください ……4
専用ACアダプターの接続について ……4

●基本編

各部の名称 ……5
消音演奏をする ……6

●応用編

リバーブをかける ……7
ピッチを合わせる ……9
同時発音数を切り替える ……11
他の機器と接続する ……12
他のMIDI機器と接続する ……13

●資料編

試聴曲の再生 ……15
主な仕様 ……16
おかしいなと思ったら、ちょっとお調べください ……16
取り扱いについて ……17
MIDIインプリメンテーションチャート ……18
保証とサービスについて ……19

付属品をお確かめください

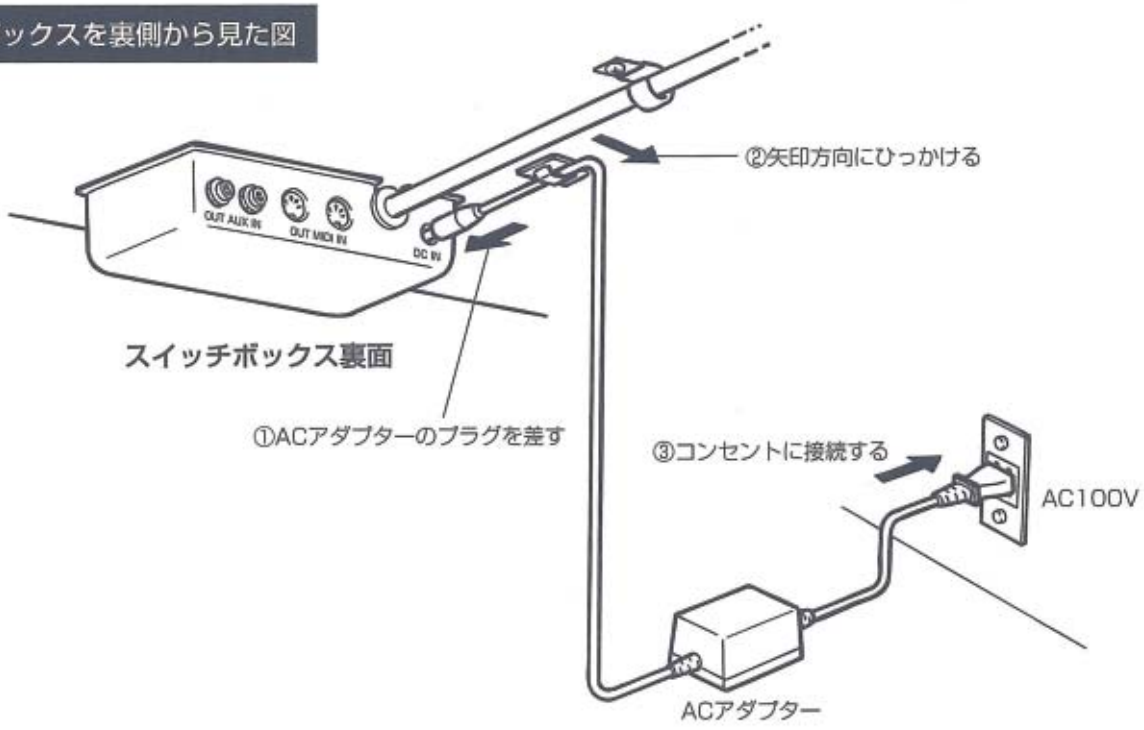
＊専用ACアダプター（VQ46140）・1個
＊ステレオヘッドフォン・1個
＊取扱説明書（本書）
＊保証書
＊ご愛用者カード

専用ACアダプターの接続について

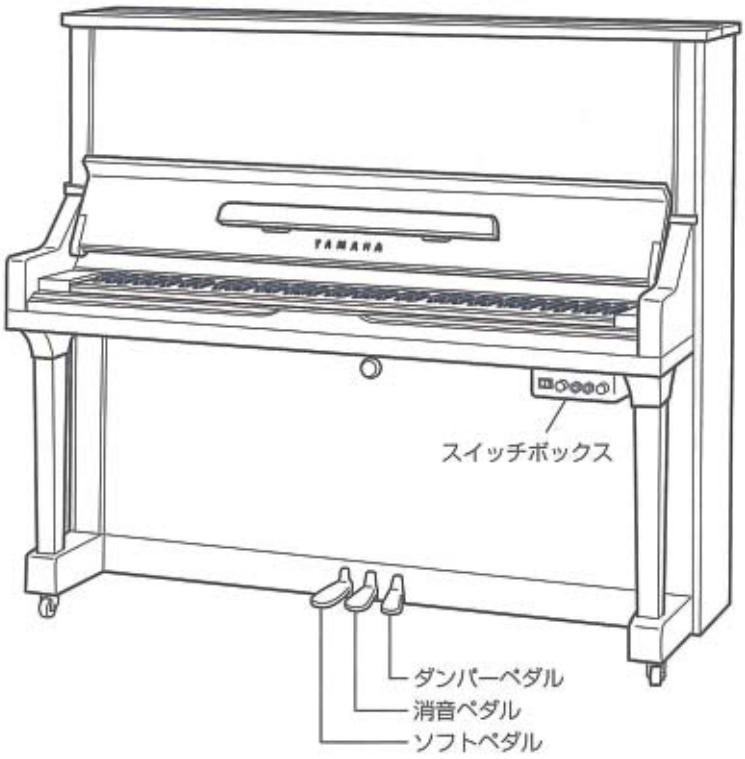
スイッチボックス裏側のDC IN 端子に、付属の専用ACアダプターを次のように接続してください。

①付属のACアダプターをスイッチボックス裏側のDC IN 端子に接続します。
②ACアダプターのプラグが簡単に外れてしまわないように、ケーブルのプラグ側に近い部分を、フックでピアノの棚板に止めます。
③ACアダプターを電源コンセントに接続します。

スイッチボックスを裏側から見た図

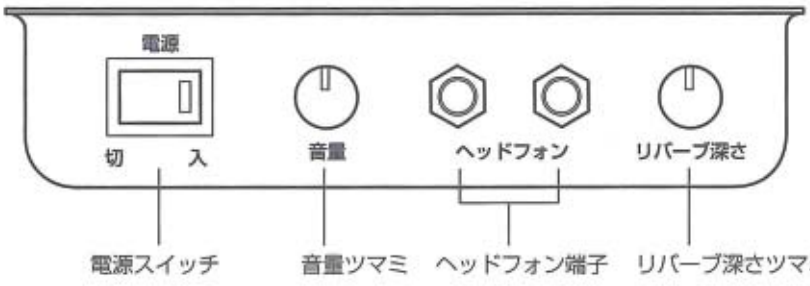


各部の名称

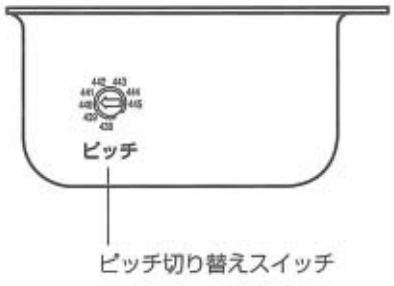


スイッチボックス

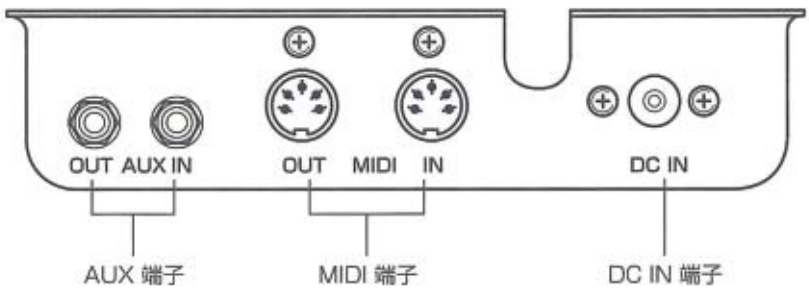
表面



側面

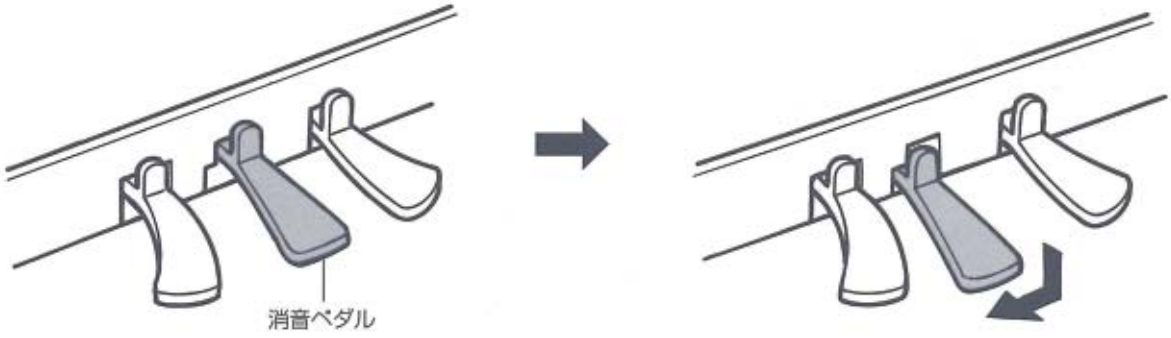


裏面

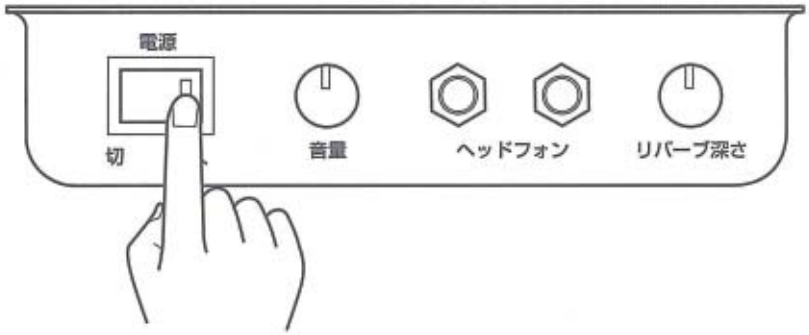


消音演奏をする

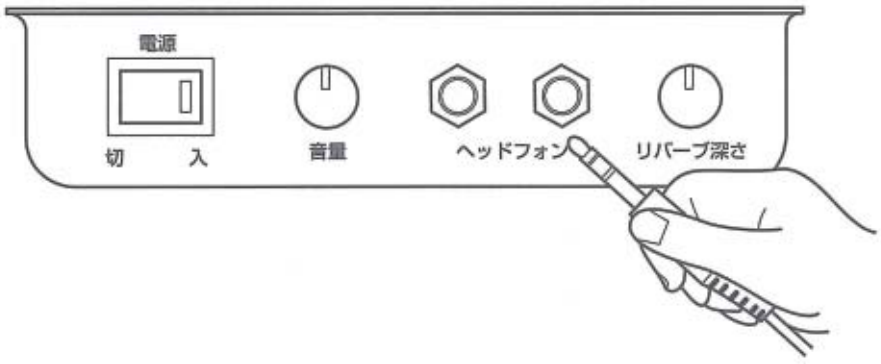
①消音ペダルを下に踏み込んでから左側にセットしてください。これでピアノの音は消えます。



②電源スイッチをオンにしてください（緑色のパイロットランプが点灯することをお確かめください）。



③ヘッドフォンをヘッドフォン端子に接続してください（ヘッドフォンは 2 本まで同時に使えます）。



④音量を調整します。　**左へ回すと：**音が小さくなる。　**右へ回すと：**音が大きくなる。

リバーブをかける

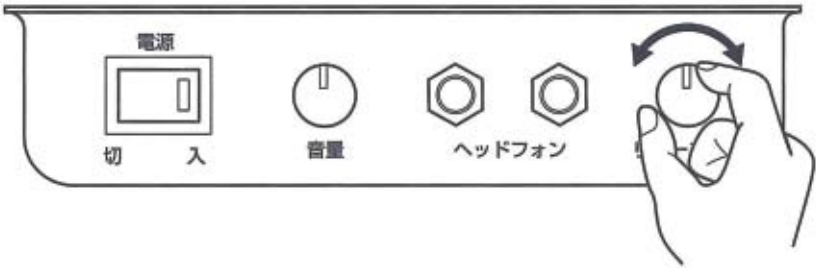
リバーブとは、音に残響をつけ加えて音の響きを豊かにする効果です。

リバーブの深さを調節する

リバーブ深さツマミを回すことにより、リバーブの深さ(かかり具合)を調節することができます。

左へ回すと：
響きが浅く(弱く)なる。

右へ回すと：
響きが深く(強く)なる。

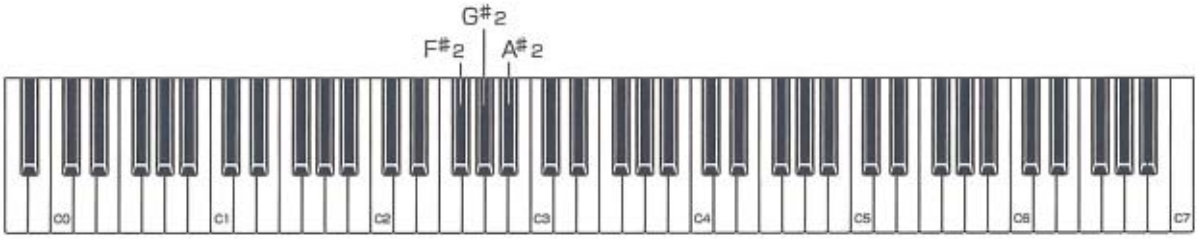


補足●リバーブ深さツマミが左一杯の状態になっていると、リバーブはかかりません。

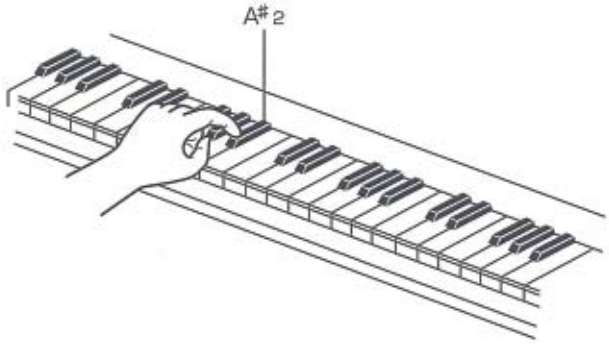
リバーブの種類を切り替える

通常の方法で電源を入れるとホール1のリバーブが選ばれますが、下記のように黒鍵を押しながら電源を入れることにより、リバーブの種類を切り替えることができます。

リバーブの種類	設 定 方 法	効　果
ル ー ム	F♯2を押しながら電源を入れる	響きやすい部屋の中で弾いたときのような音になります。
ホール 1	G♯2を押しながら電源を入れる	小さなコンサートホールの中で弾いたときのような音になります。
ホール 2	A♯2を押しながら電源を入れる	大きなコンサートホールの中で弾いたときのような音になります。



●設定例…ホール2のリバーブをかけたい場合



A♯2を押しながら ＋ 電源を入れる

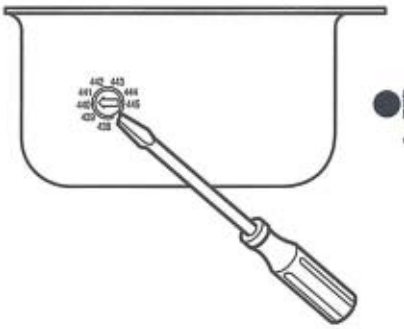
補足●リバーブの種類の設定は電源を切ると解除され、通常の方法で電源を入れるとホール1に戻ります。

ピッチを合わせる

ピッチを切り替える

本機のスイッチボックス側面部には、ピッチ切り替えスイッチがあり、スイッチを回すことによりピッチ（音程）を切り替えることができます。
一般的に標準のピッチはA_3=440ヘルツですが、声楽やオーケストラの演奏では曲によって、あえてピッチを変えることがあります。ピッチを440ヘルツよりも上げると明るくに冴えた感じの音になり、440ヘルツよりも下げると暗い感じになります。あらかじめピッチが数値で分かっている場合は、ピッチ切り替えスイッチを使用してピッチを合わせてください。

スイッチボックス側面図



●設定…－（マイナス）ドライバーで、回して設定します。

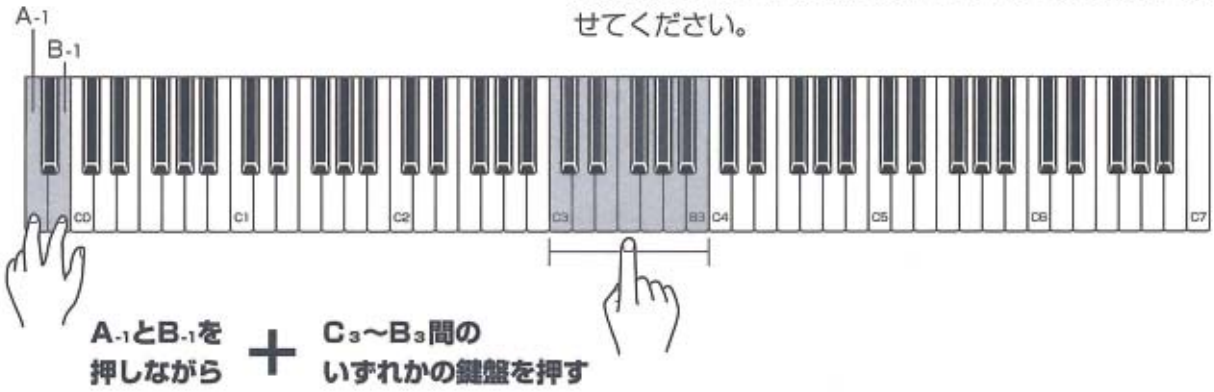
補足
●ピッチは438ヘルツ～445ヘルツの範囲内で、1ヘルツきざみの設定ができます。（1ヘルツ＝約4セント）
●工場出荷時のピッチは、A_3=440ヘルツになっています。

ピッチを微調整する

ピッチ切り替えスイッチで設定したピッチ（音程）を、さらに微調整することができます。この機能を使うことにより、他の楽器とピッチを正確に合わせることができます。合奏のときなどに楽器間でピッチがずれていると、両者の間で音にうねりが生じます。本機と他の楽器の両方を鳴らしながら、うねりがなくなる高さに調整してください。

ピッチを上げるとき

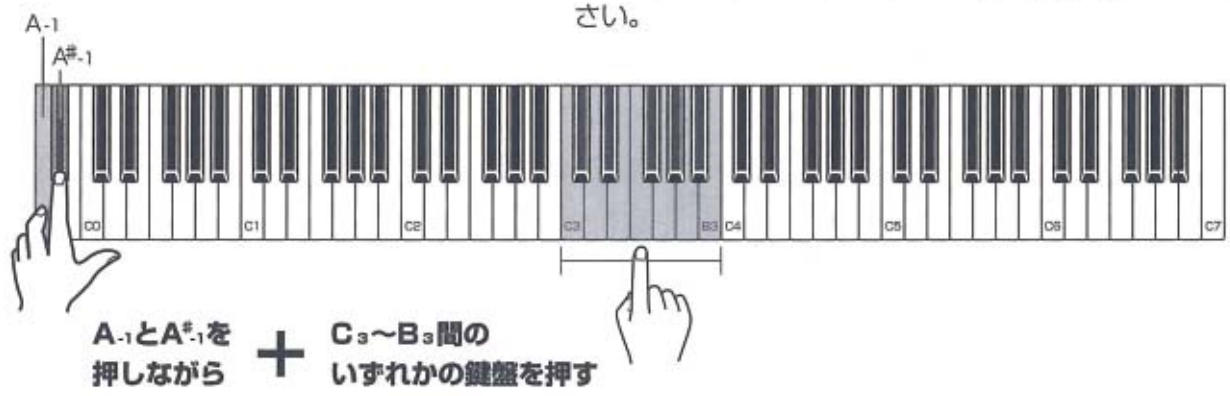
① A_{-1}とB_{-1}の鍵盤（左端の白鍵2つ）を同時に**押しながら、**
② C_3～B_3いずれかの鍵盤を押します。
1回押すごとに少しずつピッチが上がります。音を聴きながらピッチをこきざみに上げて、他の楽器と合わせてください。



A_{-1}とB_{-1}を押しながら ＋ C_3～B_3間のいずれかの鍵盤を押す

ピッチを下げるとき

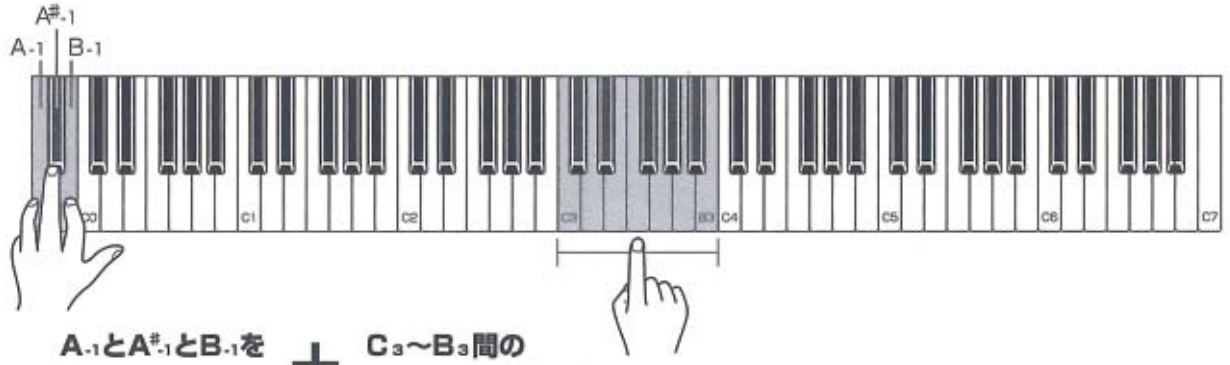
① A-1とA♯-1の鍵盤（左端の白鍵と黒鍵）を同時に**押しながら、**
② C3～B3いずれかの鍵盤を押します。
1回押すごとに少しずつピッチが下がります。音を聴きながらピッチをこきざみに下げて、他の楽器と合わせてください。



A-1とA♯-1を押しながら ＋ C3～B3間のいずれかの鍵盤を押す

ピッチ切り替えスイッチで設定したピッチに戻すとき

① A-1とA♯-1とB-1の鍵盤（左端の白鍵2つと黒鍵1つ）を同時に**押しながら、**
② C3～B3いずれかの鍵盤を1回押します。



A-1とA♯-1とB-1を押しながら ＋ C3～B3間のいずれかの鍵盤を押す

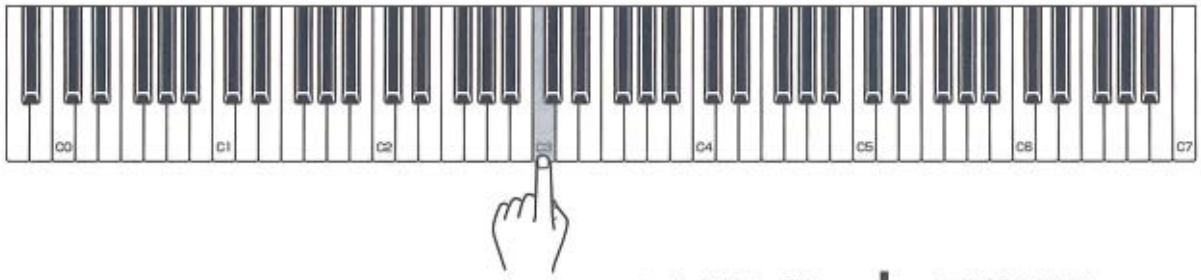
補足
●ピッチは±約50セントの範囲内で、約1.2セントきざみの設定ができます。（100セント＝半音）
●鍵盤で設定したピッチは電源を切ると解除され、電源を入れると、ピッチ切り替えスイッチで設定したピッチに戻ります。

同時発音数を切り替える

本機の最大同時発音数は、通常ステレオサンプリング32音です。連弾やペダリングを多用する曲を演奏するなど、同時に33音以上を必要とする場合は、最大同時発音数をステレオ64音に切り替えることができます。

64音に切り替えるとき

① C_3の鍵盤を押しながら、
② 電源を入れます。



C_3を押しながら ＋ 電源を入れる

補足
●同時発音数の設定は電源を切ると解除され、次回通常の方法で電源を入れると、最大同時発音数はステレオサンプリング32音に戻ります。

他の機器と接続する

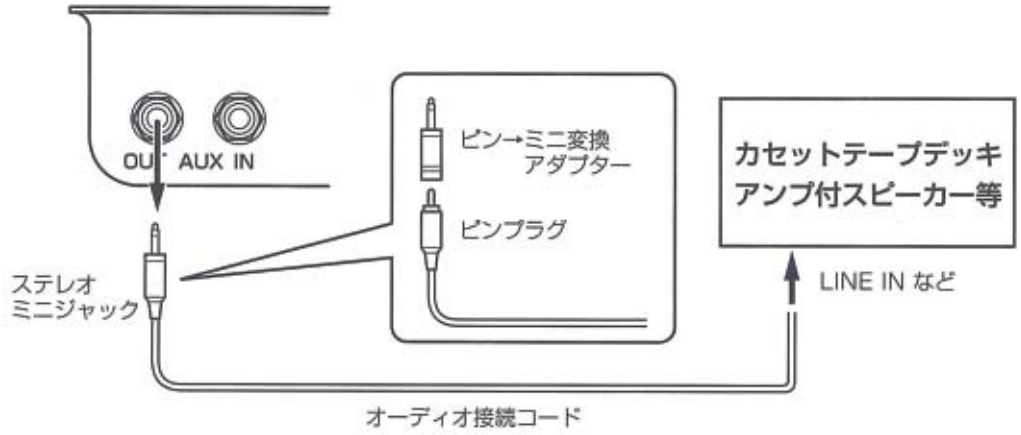
本機のスイッチボックス裏面にあるAUX端子を使って、他の機器と接続できます。ここでは、AUX端子の使用例をご紹介します。

AUX出力(AUX OUT)端子の使用例

●消音演奏をカセットテープに録音できます。

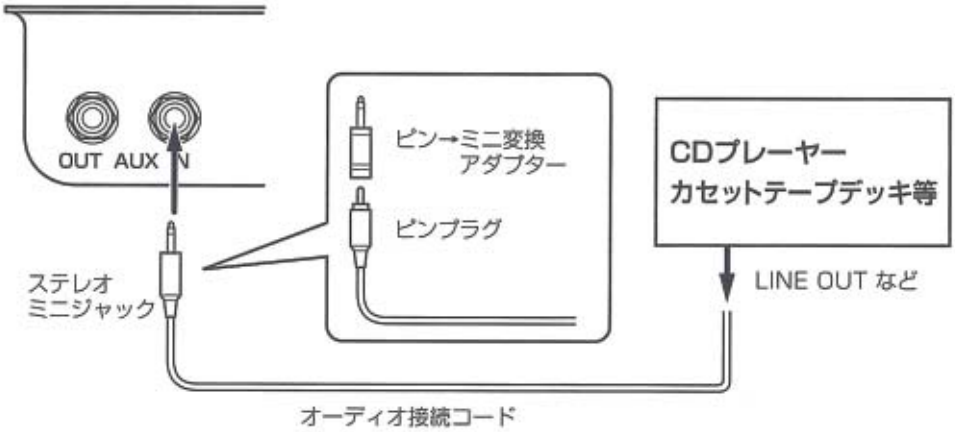
●アンプ付きスピーカーやステレオにつなぐと、スピーカーで音が聴けます。

●AUX OUT端子からは、ヘッドフォンで聴く音と同じ音が出力されます。



AUX入力(AUX IN)端子の使用例

●音源モジュールやCD、カセットテープに合わせて消音演奏することができます。



⚠注　意　●接続は、必ず両機器の電源を切ってから行ってください。

補足

●本機のAUX IN/OUT端子はステレオミニジャックです。
相手側の端子に対応したケーブル、または端子形状の変換アダプターが必要になります。

●オーディオ接続コードおよび変換アダプターは、抵抗のないものをお使いください。

●AUX入力端子より入力された音は、本機では音量調節できません。サイレント音とのバランスは相手側（音源、CDプレーヤ）のボリュームで行ってください。

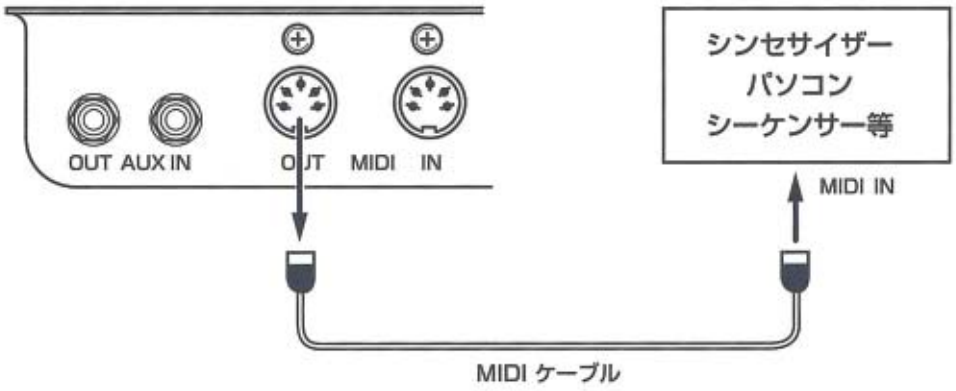
他のMIDI機器と接続する

本機のスイッチボックス裏面にあるMIDI端子を使って、他のMIDI機器と接続できます。ここでは、MIDI端子の使用例をご紹介します。

MIDI出力(MIDI OUT)端子の使用例

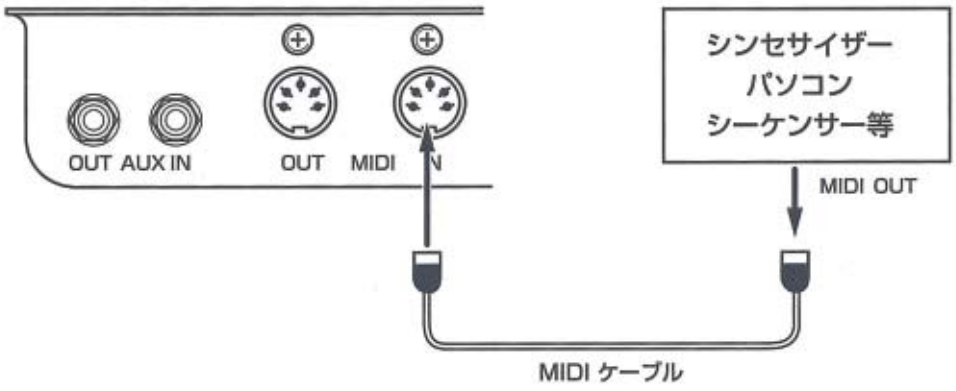
●消音演奏して、シンセサイザーや音源モジュールを鳴らすことができます。

●シーケンサーやパソコンに演奏情報を送り、記録することができます。



MIDI入力(MIDI IN)端子の使用例

●シーケンサーやパソコンでピアノ消音ユニット内蔵ピアノ音源を鳴らすことができます。
また、その音に合わせて消音演奏することができます。



MIDIって何!?

MIDIは、電子楽器同士をMIDIケーブルで接続すると、同時に鳴らしたり、録音した曲を交換しあったりできる、メーカーを超えた世界共通の規格です。MIDI規格の楽器ならどれとも、連携プレイが楽しめます。本機は、MIDI IN 、MIDI OUT端子を１つずつ装備しています。

MIDI IN ……演奏情報を受け取る　　MIDI OUT……演奏情報を送り出す

MIDI楽器に装備されているこれらの端子同士を、MIDIケーブルでつなぎ、数台ぐらいまでの連携プレイを楽しむことができます。接続は、必ず楽器の電源を切ってから行いましょう。

MIDI受信チャンネルの切り替え

ピッチ切替スイッチで、MIDI受信チャンネルを切り替えることができます。通常MIDIの送受信はチャンネル1に設定されていますが、ピッチ切り替えスイッチを438ヘルツの1つ右にある目盛に合わせると、チャンネル1＋2の受信が可能になります。

スイッチボックス側面部

●設定… －（マイナス）ドライバーで回して、438の1つ右の目盛に設定します。

補足

●MIDIの受信をチャンネル1＋2に設定した場合、ピッチは440ヘルツに固定されます。ただし、鍵盤による微調整は可能です。(→9ページ)

●右手パートと左手パートを別々のチャンネルに設定してある曲を再生するときなどに設定します。

試聴曲の再生

本機には試聴用の曲が8曲入っており、再生させ、ヘッドフォンで聴くことができます。
※スイッチボックスにある音量ツマミの位置にご注意ください。標準音量は、音量ツマミが時計の3時の位置になるように設定されています。

① B_6とC_7の鍵盤（右端の白鍵2つ）を同時に**押しながら、**電源を入れます。

補足
●電源を入れて約3秒後に「カチッ」という音が聞こえたら、すぐに鍵盤から指を離します。

全曲リピートになり、1曲目から8曲目までが繰り返し再生されます。

② ヘッドフォンをヘッドフォン端子に接続し、音量を調整します。

③ 操作①の後に1曲だけ再生させるときは、E_6～B_6いずれかの鍵盤を押します。押した鍵盤の曲が再生され、終わると停止します。再度全曲リピートさせるときは、C_7を押します。また、E_6よりも左側の鍵盤を押すと、再生が停止します。

④ 試聴曲の再生モードを解除するときは、電源を入れ直します。

補足
●電源を切るまでは、再生が停止していても再生モードになっているため、該当する鍵盤を押した時点で再生が始まってしまいます。

試聴曲リスト

曲番号（鍵盤）	曲名／作曲者名
1曲目（B_6鍵盤）	スケルツォ第2番／ショパン
2曲目（$A^{\#}_6$鍵盤）	I Hear A Rhapsody／George Frajos,Jack Baker,Dick Gasparre
3曲目（A_6鍵盤）	前奏曲集第1巻より、「亜麻色の髪の乙女」／ドビュッシー
4曲目（$G^{\#}_6$鍵盤）	Somewhere Out There／Cynthia Weil,James Horner,Barry Mann
5曲目（G_6鍵盤）	ピアノソナタ第12番第3楽章／モーツァルト
6曲目（$F^{\#}_6$鍵盤）	When I Fall in Love／Albert Selden
7曲目（F_6鍵盤）	夜想曲（ノクターン）第5番／ショパン
8曲目（E_6鍵盤）	Easy Winners／Scott Joplin

主な仕様

●音源方式……AWM2音源
●音　色……ピアノ
●センサーユニット……連続検出キーセンサー、連続検出ラウドペダルセンサー、ON／OFF
ソフトペダルセンサー
●最大同時発音数……ステレオサンプリング32音（ステレオ64音）
●コントロール・機能……電源スイッチ（ランプ付）、音量ツマミ、リバーブタイプ切り替え
（ルーム、ホール1、ホール2）、リバーブ深さツマミ、ピッチ切り替え
スイッチ、ピッチコントロール、ダンパーペダルの共鳴効果
●付属端子……ヘッドフォン端子（2）
AUX 端子（IN/OUT）
MIDI 端子（IN/OUT）
●定格電源……AC100V（50／60Hz）
●定格消費電力……12W（DC15V／700mA）
●付属品……ACアダプター（VQ46140）（1）、ステレオヘッドフォン（1）、
取扱説明書、保証書、ご愛用者カード

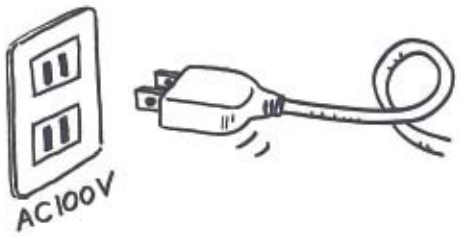
おかしいなと思ったら…ちょっとお調べください

電源を入れても音がしない。	●ACアダプターが抜けているかもしれません。確実に差し込んでください。 ●音量ツマミが左一杯の位置になっているかもしれません。適正位置に調整してください。 ●標準音量は音量ツマミが、時計の3時の位置になるように設定されています。
消音演奏時にも生ピアノの音が出る。	●極度に強く打鍵すると生ピアノの音が出ることがあります。打鍵の強さを加減してください。
市販のヘッドフォンで聴くと音のバランスが異なる。	●ヘッドフォンの種類によってそれぞれ特性が異なるため、ヘッドフォンによってはバランスが異なることがあります。
市販のヘッドフォンで聴くと音量が異なる。	●ヘッドフォンの種類によってそれぞれ特性が異なるため、ヘッドフォンによっては音量が異なることがあります。
消音演奏時にピアノの本体からカタカタという音がする。	●故障ではありません。アコースティックピアノ本来の打鍵音です。 ●アコースティックピアノ本来の音色や響きなどを生み出す要素のひとつです。
リバーブがかからない。	●リバーブ深さツマミが、左一杯の位置になっているかもしれません。ツマミを右に回して、適度な深さに設定してください。
音が残りすぎる。（残響がかかりすぎる。）	●リバーブ深さツマミの設定が深すぎるかもしれません。ツマミを左に回して、適度な深さに設定してください。
他の楽器とピッチが合わない。	●ピッチ切り替えスイッチが他のピッチ位置になっているかもしれません。ピッチ位置を他の楽器のピッチに合わせてください。

取り扱いについて

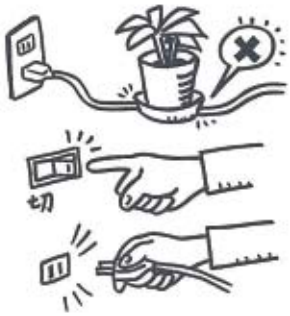
●電源について

必ずAC100V（50HZまたは60Hz）のコンセントに接続してください。AC100V以外のコンセントには接続しないでください（本機は日本国内仕様です）。
長期間ご使用にならないときは、ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。



●コード類について

コード類の上に物を置いたり、ピアノのふたに挟みこんだりしないでください。
コード類を抜き差しするときは、必ず電源を切ってから行ってください。
コード類を抜くときは、断線やショートを防ぐため、必ずプラグを持って行ってください。



●落雷の恐れがあるときは？

早めにコンセントからACアダプターの電源プラグを抜き取ってください。

●水に濡れたときは？

万一雨がかかったり、水をこぼしてしまったときは、すぐ電源プラグを抜き、販売店にご連絡ください。また、煙やスプレーなどがかからないよう、ご注意ください。

●他の電気機器への影響は？

本機の近くでラジオ・テレビなどを同時に使用すると、ラジオ・テレビ側で雑音などが生じることがあります。十分離してご使用ください。

●故障かな？と思ったら

ACアダプターがきちんと接続されていなかったり、意外なところで操作を誤っている場合があります。

●移動するときは？

ACアダプター、コード類をすべて外してから移動します。ピアノの運搬・移動は専門の業者に依頼することをおすすめします。

MIDIインプリメンテーションチャート

Date:1999. 9.1
Version:1.00

ファンクション		送　信	受　信	備　考
ベーシック チャンネル	電源オン時 設定可能	1 ×	1, 1+2 1, 1+2	
モード	電源オン時 メッセージ 代用	3 × ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	3 3 ×	
ノート ナンバー	 音域	21～108 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	21～108 21～108	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH,v=1－127 × 9nH,v=0	○ v=1－127 ○	
アフター タッチ	キー毎 チャンネル別	○ ×	○ ×	＊1
ピッチ・ベンド		×	×	
コントロール チェンジ	7 10 11 64 67	× × × ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	ボリューム パン エクスプレッション ダンパーペダル ソフトペダル（シフトペダル）
プログラム チェンジ	 設定可能範囲	× ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	×	
エクスクルーシブ		×	×	
コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	オール・サウンド・オフ リセット・オール・コントローラ ローカルオン/オフ オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × × × ○ ×	○ (120,126,127) × ○ ○ (123－125) ○ ×	

備考　＊1　打鍵後のキーを押さえ込む圧力で連続的に“キー毎のアフタータッチ”を出力するのではなく、各鍵盤の位置等を独自の付加情報として送信・受信する。

モード1：オムニ・オン、ポリ　　モード2：オムニ・オン、モノ　○：あり
モード3：オムニ・オフ、ポリ　　モード4：オムニ・オフ、モノ　×：なし

保証とサービスについて

本機の保証期間は、保証書に記されたご購入の日付から１ヶ年です（現金、ローン、月賦などによる区別はございません）。また保証は、日本国内にてのみ有効と致します。

●保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お名前、お買い上げの年月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効になりますので、くれぐれもご注意ください。

●保証書は大切に保管しましょう

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまに、保証規定にのっとりご購入の日から向う１ヶ年の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。いつでもご提示いただけますように十分ご配慮の上で保管してください。また、後々のサービスに際しての機種の判別や、サービス依頼店の確認などにも役立ちます。保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。

●保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買い上げ店にご連絡いただきますと、技術者が修理・調整致します。この際、必ず保証書をご提示ください。ご提示なき場合には、サービス料金をいただく場合もあります。また、お買い上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ店あるいはヤマハにご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続き致します。

●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有償にて修理させていただきます。下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要になります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハサービス網までお問い合わせください。なお、補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後最低8年となっています。

〔消耗部品の例〕ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子など

ヤマハサービス網

ピアノ消音ユニット・ピアノの保守点検等のサービスに関するお問い合わせは、
お買い上げいただきましたヤマハ楽器特約店のほか、下記ヤマハサービス網にてお受け致しております。

ヤマハ株式会社

北海道支店	〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50（ヤマハセンター内）	☎011(512)6114
仙台支店	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル	☎022(222)6144
東京支店	〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11	☎03(5488)5442
名古屋支店	〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28	☎052(201)5145
大阪支店	〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館	☎06(6252)7541
九州支店	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4	☎092(472)2152

ヤマハピアノサービス株式会社

横浜センター	〒211-0025 川崎市中原区木月1184 ヤマハ日吉センター内	☎044(433)3723
名古屋センター	〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ流通センター内	☎052(652)6687
大阪センター		
吹田工房	〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16	☎06(6878)9037
明石工房	〒674-0092 明石市二見町東二見265-1	☎078(942)0889
本社	〒430-8650 浜松市中沢町10-1	☎053(460)1631

所在地・電話番号などは都合により変更することがございます。予めご了承ください。

ピアノインフォメーションセンター

〒430-8650　浜松市中沢町10-1　フリーダイヤル 0120-084808
（営業時間 月～金 10:00～12:00／13:00～17:00）

ヤマハ株式会社　ピアノ事業部国内営業部

〒430-8650　浜松市中沢町10-1　TEL.(053)460-2181

XW582A0 379910 Ⓝ カタログコード PPT-404